

地域福祉を考える会（Society of Study for Community Works）

令和7年度（2025年）活動・事業計画

基本方針

2004年9月にNPO法人を取得し20年を迎え更に地域福祉を考える会の活動・事業に対し責任を感じる次第であります。これからも認定NPO法人として質量ともにより高いレベルのNPO活動をすすめていきたいと思えます。

世界に類をみない速さで高齢化が進む我が国。すでに国民の4人に一人が65歳以上という社会を迎え、今では時代に即した新たな介護保険制度の改正や子育て支援制度の抜本的強化も現実化してまいりました。

又、虐待・ネグレクト・学習障がい・ひきこもり・青少年犯罪の低年齢化などなど、少子化に伴って発生する様々な社会問題が増加の一途をたどっています。さらに、格差拡大による高齢者の貧困や子どもの貧困・教育の格差などの社会問題が顕著になっています。

地域福祉を考える会は、これらの社会問題に真摯に向き合い、社会的ニーズに答え、地域福祉の水準向上のために、手を携えてまいりたいと思えます。今年度は更に「人を孤立させない地域づくり」のまちをめざしてすすめてまいります。

友愛電話サービス部会・活動計画

1. 活動の主旨・目的

登録された一人暮らしの方や日中一人で話し相手がない方、介護をしている方などに電話友だちとして週1回（月曜日午前・午後、木曜日午後）電話サービスを実施する。

社会福祉協議会と共催事業による。

2. 現状の課題と評価

近年さまざまな理由により、利用者が減少してきている。その理由として実施している曜日がディサービスと重なったり通院（特に月曜日）したりするために、今まで利用していた方が利用できなくなっている。

3. 利用者を増やす方策

伊勢原市社会福祉協議会（老人会の役員会）や民生委員協議会に友愛電話の趣旨を説明したり友愛電話案内を配布したりしている、又一人暮らしの方や日中一人になる方にもお知らせしてもらうように依頼してきた。

包括支援センターに依頼したり、各地区のミニサロンや老人会等でPRしたりして利用者の増につとめる。

行政機関、商業施設などにチラシを置かせてもらう。

4. 2025年度の活動計画

(1) 検討課題

① コーディネーターの育成、若い世代に継承していく。

ボランティアを増やし、必要とされていることを自覚して電話をしていく。

ローテーションの割り振りも、話し合いをしながら組んでいく。

- ② 状況が確認できたら、タイムリーに地域または社協、包括支援センターにつなげて行き、その方に必要な課題を提供してもらうようにする。
- ③ 現在継続しているが、2025年度以降も必要なサービスであり続けたい。

(2) 活動計画

毎週 月曜日（午前・午後） 木曜日（午後）の週3回実施

- ☆ 初級講習会 11月 開催予定
- ☆ 友愛電話交流会 10月15日開催予定
- ☆ 利用者に暑中見舞い、年賀状を出す。（継続）

2. 子育てひろばきらきら・活動計画

(1) 活動の主旨・目的

子育てで戸惑ってしまう母親、子育て中の親子が気軽に集い、そんな子育てに関するさまざまな思いや疑問、心配事を「ひろば」に集まる人々と共に過ごすことで少しずつ解消できればとの思いで平成17年7月「子育てひろばきらきら」を開設。

(2) 現状の課題と評価

(課題) ○母親にとって子育ての不安感、負担感、また子どもがいろいろな大人・子どもとの関わりが少なくなっている現状でもある。

○「毎日続けてほしい・・・」という声もあり常設も視野にいれ検討しているが、場所の確保に難しい面がある。スタッフ（サポーター）のスキルアップと効率的な運営方法を検討。

(評価) ○きらきらひろばを始めて20年、地域の拠点として「話し相手がほしい」「子育ての仲間がほしい」「子どもの友だちをみつけない」など、様々なニーズの方々が集まってきている。利用者からは、広々とした場所でゆったりとした気持ちで参加できるとの声をいただいている。又、サポーターと何気ない日常会話をくりだすことでお互いの信頼関係を深めている。

○予約不要、出入り自由のため、気軽に利用できる。コロナ渦の時も、予約不要としたため、多くの感謝の言葉をいただいた。

○市こどもみらい部 こどもみらい課共催事業、(社福)社会福祉協議会(小地域活動推進事業助成金)の支援と協力。

(3) 2025年度の活動計画

子育てひろばきらきらは(主に0歳～2歳)とその保護者のためのフリースペース。おしゃべりしたり、くつろいだり、情報交換したり、子育ての知恵や経験を交流できる【集う】場所として《母親支援》の趣旨を忘れることなく活動をする。

(ア) 活動日(火曜日:45回)/サポーター調整会議随時

(イ) お楽しみプログラム

- ・子どもの成長を見守る・・・手形づくり(2か月に1回)
- ・お話し会・・・読み聞かせ・手遊び・わらべうたなど(月1回)
- ・みんなで運動しましょう(ストレッチとボクササイズ)(月1回)
- ・季節の行事(七夕・クリスマス・ひなまつり等)
- ・外部ボランティア協力の充実
- ・母親向け講習会の企画(7月)

3. 成年後見部会・活動計画

(1) 活動の主旨、目的

受任している被後見人の年齢が20代から80代と幅広いため、その方々の法的支援者として高齢者や障がい者への理解を深め、特に意思決定支援が重要視されている社会情勢もふまえてより良い後見活動を目指します。また市民後見人へのニーズが高まる中任意後見受任も含め市民ならではの目線を大切に活動を進めます。

(2) 現状の評価と課題

昨年度、知的障がいの青年の自立（被後見人からの脱却）を果たした事は、当法人がご本人の意思を大切に丁寧な後見活動を進めてきた証であり評価されている。

ただし成年後見制度の重要性や市民後見の大切さが言われている割には被後見人の依頼が伸び悩んでおり、令和6年度も1名増にとどまっている。

今後も高齢者のケアマネジャーや市社協の成年後見・権利擁護推進センター等と協力しながら、成年後見制度の普及啓発に取り組んで行く。

(3) 2025年度活動計画

ア 本人参加による意思決定支援会議を関係機関に促し参加する。

イ かながわ法人後見連絡会と連携し、活動上の問題点改善に向けた取り組みを行う。特に意思決定支援の在り方について他団体の取組みを参考にしていく。

ウ コロナ禍以降対面での研修が激減したが、新任及び現任者のスキルアップのために研修会等を企画し、また関係機関主催の研修会にも参加し研鑽に励む。

エ 任意後見制度の推進を図り受任を推進していく。特に一人暮らしの高齢者が住居の契約の更新、老人福祉施設への入居時に成年後見人を求められる事例が増えている事もあり、タイムリーに対応できる任意後見契約を推進していく。

オ 従来より障がいの重い方の相談が増えており、行動障害や難病など困難な事例への適切な対応のため、都度専門家や行政との連携を深める。

カ 高齢者の相談も増えているため、ケアマネジャーや包括支援センター等高齢者部門との更なる連携を図る。

キ 市の広報やローカル紙等を活用して後見活動を紹介し、会員を募り増強に努める。

こども支援事業（1）

いせはら みらいクルリンこども食堂（2ヶ所）

こども食堂天（てん）キッチン & 朝ごはんだよ こども食堂

1、主旨

相対的貧困率は悪化しつづけており、2018年の厚生労働省の発表によると、15.7%であることが明らかになりました。教育格差、貧困の連鎖が広がっています。生活保護を受けている、もしくは、年収が生活保護費とかわらないワーキングプアの家庭で育つ子どもが、7人に1人いるのです。地域の子どもの、地域が見守り、学びや暮らしを有機的に支えるネットワークをつくり、子どもの未来を明るく変えていきたいと願っています。

現在、子供の6人に1人は貧困家庭にあると言われています。家計が苦しくて十分な食事がとれない子。家庭の事情で夕食は一人、コンビニ弁当やインスタントもので済ませてしまう子。心と体を育むはずの「食」が揺らいでいます。こうした状況の中、食の面から子どもに支援しようと立ち上げました。

<2025年度活動計画>

子どもに安心して食事をとってもらい、栄養のバランスがとれた食事の提供で食育を行う。子ども食堂が食を通じ子どもを囲んでのみなさんとのコミュニティ（寄り添える）居場所になるよう努力する。

●いせはらみらいクルリン子ども食堂（いせはら）

初回開催：平成28年6月23日

開催：月1～2回（17回）

料金：子ども（高校生まで）100円、大人300円

場所：伊勢原市中央公民館4階調理実習室

スタッフ：12名（令和7年4月現在）

●いせはらみらいクルリン子ども食堂（なるせ）

初回開催：令和5年4月13日

開催：月1回（12回）

料金：子ども（高校生まで）100円、大人300円

場所：伊勢原市成瀬公民館学習室、集会室

スタッフ：12名（令和7年4月現在）

●子ども食堂天（てん）キッチン

目的：子どもが食育の大切さを覚えながら自分で調理を体験する。

初回開催：平成31年2月24日

場所：創作料理 天（伊勢原1-11-22）

指導：庄司歴人氏他（天店主） 開催日：月1回

参加：小学4年生～高校生（原則） 参加費：無料 スタッフ：7名

●朝ごはんだよ 子ども食堂

目的：朝ごはんを様々な理由で食べずに登校してくる子どもに、朝食を食べることによって、心身ともに健やかな成長への支援

開催：毎月第4月曜日 朝6時45分～7時30分

参加費：子ども無料、大人200円

場所：いせはらふくじゅ（伊勢原1-20-6） スタッフ：10名（当番制）

子ども支援事業（2）学習サポートみらい・つなぐ

◇事業の主旨

生活が困窮している世帯の子ども他が適切に学習の習慣が身につくよう支援する。

また、子どもや保護者が主体的に進路を考え、選択できるよう支援するとともに、子ども及びその世帯の課題を整理し、学習習慣づくり等を通して子どもの社会的自立を支援する。

◇目的：

学習支援サポート事業は「学習支援」「子どもの居場所」「保護者相談」を柱として進める。

◇初回開校日：平成28年9月7日

- ◇伊勢原市子ども学習習慣づくり支援事業として受託
- ◇学 年 : 小学4, 5, 6年生・中学生(原則)
- ◇支援員 : 一般9名、大学生 12名登録
- ◇形 態 : 個別・グループ指導
- ◇実施場所 : いせはら市民活動サポートセンター他

<2025年度活動計画>

今までと同様に、一人一人の個に合った指導を心がけると共に、共に成長する姿勢をお互いに学び合い、関係性を築いていく。伊勢原市・市教育委員会・保護者と連携をしていく。引き続き、感染症対策には気を配りながら進める。

- 児童生徒登録数 (令和7年4月現在)
5年(1名)6年(5名)・中1(8名)・中2(11名)中3(11名)計36名
- 開催日 : 火曜日・金曜日 (年間90回予定)
- 時 間 : 小学生 5時~6時30分(原則)
中学生 5時~8時

子ども支援事業(3) いせはらフリースクール風の谷

◇活動の主旨 目的

- 伊勢原市内小中学校の児童生徒が学校に行かないと選択している子どもが年々増加しています。(令和5年度は200人を超えた)
- 義務教育段階での学びの欠落は、その後の人生に多大なる影響を与えることを考えれば、育った家庭環境に左右されることなく、だれもが自分の可能性を伸ばせる場所が求められています。又、自己肯定感を取り戻し多くの人々に支えられて大空に飛び立つ学びの場を創ることを目指してまいります。

- ◇対 象 者 : 児童・生徒 : 小学5年生~中学3年生(応相談)
- ◇活 動 日 : 月、火、木 10時~15時
- ◇活動内容 : 学習支援、ソーシャルトレーニング、個にあわせた教育、進路相談
保護者相談他
- ◇月 謝 : 3千円
- ◇支 援 員 : 元教員、スクールカウンセラー、相談員、学童支援員他
- ◇会場場所 : 元中央保育園2階
- ◇開 始 日 : 令和7年4月1日
- ◇開 校 日 : 令和7年6月3日(火)

子ども支援事業(4) 伊勢原市放課後こども教室事業受託 比々多小 未来っ子クラブ(ひびた教室)

◇活動の主旨 目的

子どもたちの社会性・自主性・創造性豊かな人間性をかん養し、子どもたちが地域社会で、安全な環境の下、健やかに育まれるための環境づくりを進める。

- ◇ 実 施 日 : 令和7年5月中旬から令和8年3月の給食のある日の放課後

- ◇ 実施時間：放課後（学校の下校時刻）から 16 時 30 分 毎週水曜日（原則）
- ◇ 活動内容：プログラムを設け、活動する。
学習、体験、遊びなどの活動を安全な環境でする。
- ◇ 対象者： 学校の全児童（申込制）
- ◇ 参加費： 無料
- ◇ 開 講： 5月14日（水）開講式
- ◇ 場 所： 比々多小学校3階図書室他
- ◇ スタッフ：コーディネーター、活動サポーター、活動推進委員、ボランティア

6未来セミナー1 読書会 & 研修

<活動方針>

- 地域での暮らしや地域福祉のベースになる様々な社会動向を読書を通し、いろいろな立場から考え合う場所としての読書会並びに研修会を行う予定です。
- 開 催： 隔月の土曜日
- 参加費： 200円（参加自由）
- 時 間： 14時～16時
- 場 所： 社協1階会議室他
 - ～第1回目 4月19日（土）課題本「宮澤賢治について考えよう」～
 - ～第2回目 6月28日（土）「そっと無理して、生きてみる」 高橋幸枝著～

未来セミナー2 けんこう ④ つなぐ ⑤ うたごえ

<活動方針>

「人生100才の時代」を迎え、元気に過ごせるよう歌（声を出す）をとおして健康に楽しいひと時をみんなで過ごす。童謡や・昭和の歌謡をみんなで歌い・パタカラ体操や笑うヨガなどで体を動かし心身ともに楽しく一時をすごす。そして「介護予防につながるような取り組み」を工夫しています。これからも「地域で高齢の方が気軽にに行けて笑顔で楽しく集まれる場所」として努力する。

場 所：シティプラザ1階ふれあいホール他
 日 時：毎月1回 土曜日 10時30分～12時
 参加費：300円 指導者：古川 恵子氏
 ○共催：伊勢原市保健福祉部長寿介護課
 ○協力：（社福）伊勢原市社会福祉協議会

7. 全体定例会・研修会開催活動・学習活動の強化

（1）活動の趣旨・目的

会員相互間での情報交換（交流）や成果発表を行うと共に、講師を招いて講演などを考える。又、一般市民対象に公開講座として開催することもある。

◎全体研修会・講演会・学習会を兼ねて随時計画する。

◎ニュースレター 年5～6回発行予定

8. 他団体と連携

- (1) 県・市・社協 他団体との協力
- (2) 伊勢原市および伊勢原市社協などの行事に協力し、参加していく。
- (3) 市内奉仕団体・NPO団体関係等連携をとる。
- (4) 私立向上高等学校共催事業「車いす体験」教室 7月4日（金）
- (5) 第58回 伊勢原市道灌まつり10月4日（土）10月5日（日）に参加予定。
- (6) いせはら災害ボランティアネットワークに協力。
- (7) サポセンフェスタに参加